



2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年5月14日

上場会社名 株式会社京都ホテル 上場取引所 東
コード番号 9723 URL <https://www.kyotohotel.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 法弘
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 井手 章 (TEL) 075(211)5111
定時株主総会開催予定日 2024年6月18日 配当支払開始予定日 2024年6月19日
有価証券報告書提出予定日 2024年6月21日
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期の業績 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(1) 経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	9,138	24.3	953	—	807	912.7	934	—
2023年3月期	7,350	72.2	△29	—	79	—	62	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	74.15	—	60.6	5.0	10.4
2023年3月期	5.16	—	5.8	0.5	△0.4

(参考) 持分法投資損益 2024年3月期 ー百万円 2023年3月期 ー百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	16,451	1,989	12.1	78.66
2023年3月期	16,078	1,094	6.8	4.51

(参考) 自己資本 2024年3月期 1,989百万円 2023年3月期 1,094百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	1,497	△169	△660	2,973
2023年3月期	885	△76	△729	2,305

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年3月期	—	—	—	0.00	0.00	—	—	—
2024年3月期	—	—	—	5.00	5.00	60	6.7	12.0
2025年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00	—	12.1	—

3. 2025年3月期の業績予想 (2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,950	△2.1	450	△52.8	320	△60.3	300	△67.9	21.55

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期	12,065,400 株	2023年3月期	12,065,400 株
② 期末自己株式数	2024年3月期	242 株	2023年3月期	242 株
③ 期中平均株式数	2024年3月期	12,065,158 株	2023年3月期	12,065,167 株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

（A種優先株式）

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	—	—	40,000.00	40,000.00
2024年3月期	—	—	—	40,000.00	40,000.00
2025年3月期(予想)	—	—	—	40,000.00	40,000.00

（注） 2023年3月期の配当原資は資本剰余金です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	3
3. 財務諸表及び主な注記	4
(1) 貸借対照表	4
(2) 損益計算書	6
(3) 株主資本等変動計算書	7
(4) キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報)	10
(1株当たり情報)	10
(重要な後発事象)	10
4. その他	11
役員の異動	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行されたことにより、社会経済活動の正常化が進み個人消費の回復や企業収益の改善が見られ、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東情勢の悪化によりエネルギー・原材料価格が高止まりしており、また世界的なインフレとそれに伴う金融引き締めを背景とした世界経済の下振れが懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、全国旅行支援再開の後押しもあり国内観光需要が増加したことに加え、訪日外国人旅行者数が10月以降コロナ禍以前と同等水準までの回復を見せ、活況を取り戻しつつあります。しかしながら、深刻化する人員不足により営業調整を余儀なくされるなど、旺盛な需要を十分に享受できないケースも出てきており、引き続き舵取りの難しい事業環境下に置かれております。

このような状況の中、当社におきましては国内観光およびインバウンドの需要を的確に捉え、宿泊部門を中心に売上を拡大させました。回復途上にある宴会部門におきましても、飲食を伴う宴会の利用が増えるなど徐々に売上を伸ばしてまいりました。また、年間を通じて創業135周年を冠した様々な商品の企画・販売やイベントの実施を行ったほか、販売価格やサービス料率の見直しを行うなど、売上・利益の最大化に努めてまいりました。

一方で、人員不足が深刻化する中、業務内容を抜本的に見直すとともに、システムの導入により業務の効率化・省力化を図り、従業員の負担を減らす対策を実行してまいりました。同時に、少ない人員でも業務運営を行えるよう、部署の垣根を越えたヘルプ体制を強化するとともに、マルチタスクに対応できる人材の育成にも取り組んでまいりました。

この他、国内外のお客様から選んでいただけるホテルを目指し、サステナビリティへの取り組みにも注力してまいりました。ホテルオークラ京都におきましては、SDGsを実践する宿泊施設の国際認証である「Sakura Quality An ESG Practice (通称：サクラクオリティグリーン) の「1御衣黄(ぎょいこう)ザクラ」を取得したことに加え、地元京都市からは、ごみの減量及びリサイクルに積極的に取り組んでいる優良事業所として認定され、「2R及び分別・リサイクル活動優良賞」を受賞しております。

これらの結果、当事業年度の売上高は9,138百万円(前年同期比24.3%増)となりました。損益面におきましては、引き続き徹底した諸経費の見直しを行うとともに、2020年5月から続く役員報酬の減額を継続するなどコスト削減にも努め、営業利益は953百万円(前年同期は営業損失29百万円)、経常利益は807百万円(前年同期比912.7%増)、最終損益は当期純利益934百万円(前年同期比1,402.1%増)となりました。

ホテル事業の部門別の営業概況は次のとおりです。

(宿泊部門)

ホテルオークラ京都におきましては、全国旅行支援の恩恵や訪日外国人観光客の急増により、宿泊客数はコロナ禍以前のインバウンド最盛期とほぼ同水準まで回復いたしました。また、客室消耗品や光熱費の高騰に伴い、販売価格の見直しを実施した結果、過去最高となる売上を達成いたしました。

からすま京都ホテルにおきましても、修学旅行を含む国内団体客に加え海外からの個人・団体客の動きは好調に推移しており、宿泊客数はコロナ禍以前の水準までほぼ回復いたしました。

この結果、宿泊部門全体の売上高は3,709百万円(前年同期比36.0%増)となりました。

(宴会部門)

ホテルオークラ京都の一般宴会におきましては、企業主催の周年パーティーや叙勲祝賀会、忘・新年会など多人数の宴会が増加傾向にあることや、当社主催のイベントも集客が好調で、売上は順調な回復を見せております。一方、婚礼宴会におきましては、新規来館数・受注件数ともに引き続き低調となり、また1件あたりの人数も減少傾向にあり、売上は厳しい状況が続いております。

からすま京都ホテルにおきましては、スタッフの人員不足による制限があるものの、修学旅行や歓送迎会などの需要が増加しており、売上は順調に回復しております。

この結果、宴会部門全体の売上高は2,717百万円(前年同期比33.5%増)となりました。

(レストラン部門)

ホテルオークラ京都におきましては、一部で営業調整を継続しているものの、販売価格・サービス料率の見直しを実施したこともあり、「鉄板焼ときわ」・「トップラウンジオリゾンテ」・「京料理入舟」を中心に、前年を上回る売上となりました。

からすま京都ホテルにおきましても、一部で定休日を新設するなど営業調整を行った影響があるものの、「中国料理 桃李」では前年並みの売上を維持するなど、堅調な回復を見せております。

この結果、レストラン部門の売上高は2,180百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

(その他部門)

テナント店舗・月極駐車場の賃貸料収入や、フィットネスクラブ（ホテルオークラ京都）の会費収入など、安定した売上を計上しております。

この結果、その他部門の売上高は530百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

部門別の売上高及び構成比等は、以下のとおりです。

部 門	売上高 (千円)	構成比 (%)	前年同期比 (%)
宿泊部門	3,709,874	40.6	36.0
宴会部門	2,717,255	29.7	33.5
レストラン部門	2,180,803	23.9	4.2
その他部門	530,153	5.8	7.0
合計	9,138,086	100.0	24.3

(注) その他部門には、フィットネスクラブ、テナント賃貸料等が含まれております。

(2) 当期の財政状態の概況

当事業年度末の総資産は、前事業年度末に比べ373百万円増加し、16,451百万円となりました。これは主に減価償却等により有形固定資産が453百万円減少したものの、売上の増加に伴い現金及び預金が667百万円増加したことによるものです。

当事業年度末の負債は、前事業年度末に比べ521百万円減少し、14,462百万円となりました。これは主に長期借入金返済により448百万円減少したことによります。なお、社債と長期借入金の全額が2025年3月に借換え予定となるため、残高の全額を流動負債に振り替えております(金融機関との良好な関係のもと、一部の内入れを除き、借換えを実行していただく予定です。)

当事業年度末の純資産は、前事業年度末に比べ894百万円増加し、1,989百万円となりました。これは主に当期純利益が934百万円計上されたことによるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、売上・利益の増加により前事業年度末に比べ667百万円増加し、当事業年度末には2,973百万円となりました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,497百万円(前年同期は885百万円の獲得)となりました。これは主に税引前当期純利益が798百万円、減価償却費704百万円があったことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は169百万円(前年同期は76百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が168百万円あったことによるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は660百万円(前年同期は729百万円の使用)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出が448百万円あったことによるものであります。

(4) 今後の見通し

今後も引き続き積極的な営業活動、閑散期対策、業務全般の効率化による諸経費の削減、人材の採用や育成の強化、さらには働き方見直しの推進による労働環境向上を目指します。

次期の業績の見通しにつきましては、売上高は今期とほぼ同水準の8,950百万円、利益面におきましては深刻な人員不足に対応すべく積極的な採用活動や既存従業員の処遇改善、引き続きエネルギーや原材料の高騰等による費用の大幅な増加が見込まれることから、営業利益450百万円、経常利益320百万円、当期純利益300百万円を予定しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は連結財務諸表を作成していないため、国際会計基準に基づく財務諸表を作成するための体制整備の負担等を考慮し、日本基準を適用しております。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,305,746	2,973,447
売掛金	554,461	592,794
原材料及び貯蔵品	62,517	68,765
前払費用	44,165	43,953
その他	43,626	20,199
貸倒引当金	△378	△210
流動資産合計	3,010,140	3,698,950
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	7,711,471	7,276,532
構築物（純額）	15,443	14,064
機械装置及び運搬具（純額）	105,199	88,782
器具及び備品（純額）	190,074	161,841
土地	4,890,314	4,890,314
リース資産（純額）	27,199	54,655
有形固定資産合計	12,939,702	12,486,190
無形固定資産		
ソフトウェア	10,206	6,883
リース資産	7,986	5,187
電話加入権	4,284	4,197
商標権	54	4
無形固定資産合計	22,531	16,272
投資その他の資産		
投資有価証券	10,300	5,314
長期前払費用	8,746	4,288
前払年金費用	20,544	39,556
差入保証金	52,037	52,334
繰延税金資産	-	134,293
その他	14,630	14,630
投資その他の資産合計	106,258	250,418
固定資産合計	13,068,492	12,752,881
資産合計	16,078,632	16,451,832

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	128,739	142,489
短期借入金	1,000,000	-
1年内償還予定の社債	-	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	448,000	10,616,000
リース債務	64,129	33,177
未払金	784,023	722,082
未払費用	78,242	93,162
未払法人税等	3,650	4,990
前受金	76,221	61,730
預り金	57,117	53,478
前受収益	43,782	45,513
賞与引当金	55,920	71,520
その他	27,660	41,340
流動負債合計	2,767,486	13,885,484
固定負債		
社債	2,000,000	-
長期借入金	9,616,000	-
リース債務	24,686	41,452
長期末払金	46,988	23,522
長期預り保証金	521,928	512,284
繰延税金負債	7,088	-
固定負債合計	12,216,691	577,259
負債合計	14,984,177	14,462,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	25,000	25,000
その他資本剰余金	1,559,414	929,635
資本剰余金合計	1,584,414	954,635
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△589,778	934,632
利益剰余金合計	△589,778	934,632
自己株式	△180	△180
株主資本合計	1,094,455	1,989,088
純資産合計	1,094,455	1,989,088
負債純資産合計	16,078,632	16,451,832

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高		
室料売上	2,740,768	3,622,188
料理売上	2,536,005	2,996,633
飲料売上	431,677	554,218
雑貨売上	352,690	385,014
その他売上	1,289,136	1,580,032
売上高合計	7,350,277	9,138,086
売上原価		
料理原価	760,246	875,049
飲料原価	89,926	114,950
雑貨原価	275,179	297,108
その他原価	158,524	130,843
売上原価合計	1,283,877	1,417,952
売上総利益	6,066,400	7,720,134
販売費及び一般管理費	6,096,384	6,767,126
営業利益又は営業損失(△)	△29,984	953,007
営業外収益		
受取利息	12	12
補助金収入	250,206	3,714
利子補給金	14,246	10,027
受取手数料	2,961	3,177
基地局設置手数料	3,222	3,320
受取保険金	1,098	4,376
その他	9,588	5,544
営業外収益合計	281,335	30,173
営業外費用		
支払利息	160,096	160,420
支払手数料	9,604	8,604
その他	1,932	6,896
営業外費用合計	171,633	175,921
経常利益	79,717	807,259
特別損失		
固定資産除却損	7,387	9,016
特別損失合計	7,387	9,016
税引前当期純利益	72,329	798,242
法人税、住民税及び事業税	3,651	4,991
法人税等調整額	6,457	△141,381
法人税等合計	10,109	△136,390
当期純利益	62,220	934,632

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	100,000	25,000	1,579,469	1,604,469	△651,999	△651,999
当期変動額						
欠損填補						
剰余金の配当			△20,054	△20,054		
当期純利益					62,220	62,220
自己株式の取得						
当期変動額合計	-	-	△20,054	△20,054	62,220	62,220
当期末残高	100,000	25,000	1,559,414	1,584,414	△589,778	△589,778

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△152	1,052,316	1,052,316
当期変動額			
欠損填補		-	-
剰余金の配当		△20,054	△20,054
当期純利益		62,220	62,220
自己株式の取得	△27	△27	△27
当期変動額合計	△27	42,138	42,138
当期末残高	△180	1,094,455	1,094,455

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	100,000	25,000	1,559,414	1,584,414	△589,778	△589,778
当期変動額						
欠損填補			△589,778	△589,778	589,778	589,778
剰余金の配当			△40,000	△40,000		
当期純利益					934,632	934,632
自己株式の取得						
当期変動額合計	-	-	△629,778	△629,778	1,524,411	1,524,411
当期末残高	100,000	25,000	929,635	954,635	934,632	934,632

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△180	1,094,455	1,094,455
当期変動額			
欠損填補		-	-
剰余金の配当		△40,000	△40,000
当期純利益		934,632	934,632
自己株式の取得		-	-
当期変動額合計	-	894,632	894,632
当期末残高	△180	1,989,088	1,989,088

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	72,329	798,242
減価償却費	757,616	704,296
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	204	△168
賞与引当金の増減額 (△は減少)	26,400	15,600
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△18,717	△19,011
受取利息及び受取配当金	△12	△12
支払利息	160,096	160,420
固定資産除却損	7,387	9,016
補助金収入	△250,206	△3,714
利子補給金	△14,246	△10,027
売上債権の増減額 (△は増加)	△267,219	△38,333
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△7,070	△6,247
仕入債務の増減額 (△は減少)	49,439	13,749
未払金の増減額 (△は減少)	153,191	48,426
その他	120,215	△26,953
小計	789,409	1,645,284
利息及び配当金の受取額	12	12
利息の支払額	△159,130	△157,762
補助金の受取額	250,206	3,714
利子補給金の受取額	10,082	10,027
法人税等の支払額	△5,094	△3,651
営業活動によるキャッシュ・フロー	885,485	1,497,624
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△71,131	△168,368
無形固定資産の取得による支出	△5,205	△444
その他	△266	△297
投資活動によるキャッシュ・フロー	△76,602	△169,110
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△2,000,000	△1,000,000
長期借入れによる収入	2,000,000	1,000,000
長期借入金の返済による支出	△448,000	△448,000
リース債務の返済による支出	△103,065	△67,377
割賦債務の返済による支出	△158,219	△105,117
自己株式の取得による支出	△27	-
配当金の支払額	△20,422	△40,318
財務活動によるキャッシュ・フロー	△729,734	△660,813
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	79,147	667,700
現金及び現金同等物の期首残高	2,226,599	2,305,746
現金及び現金同等物の期末残高	2,305,746	2,973,447

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社は、内外顧客の宿泊、宴会、レストラン等を中心とするホテル経営及びホテル付随業務を事業内容としております。経営資源の配分の決定及び業績評価は当社全体で行っていること等から判断して、報告セグメントが単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	4.51円	78.66円
1株当たり当期純利益	5.16円	74.15円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)
当期純利益	62,220千円	934,632千円
普通株主に帰属しない金額	－千円	40,000千円
普通株式に係る当期純利益	62,220千円	894,632千円
普通株式の期中平均株式数	12,065,167株	12,065,158株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

役員の変動

①その他の役員の変動

・新任監査役候補

監査役 渡辺 伸充 (現 みずほトラストビジネスオペレーションズ(株) 顧問)

(注) 新任監査役候補者 渡辺 伸充氏は、社外監査役候補者であります。

・退任予定監査役

監査役 長谷川 啓一

②補欠監査役候補者の選任

・補欠監査役候補者 日原 時一 (現 池田泉州オートリース(株) 代表取締役社長)

(注) 補欠監査役候補者 日原 時一氏は、補欠の社外監査役候補者であります。

③就任(退任) 予定日

2024年6月18日